

令和6年度第1回釜石・大槌地域保健医療推進会議
(釜石構想区域地域医療構想調整会議) 開催結果概要

1 日時

令和6年9月10日(火) 午後6時30分～午後8時

2 場所

釜石市大町1丁目1-10 釜石情報交流センター多目的集会室(釜石PIT)

3 出席者

- ・委員19名(うちWeb出席2名)
- ・岩手県保健福祉部医療政策室職員2名(Web出席)、岩手県医療局職員1名
- ・岩手県釜石保健所職員6名

4 傍聴者

2人

5 議事及び説明事項

(1) 地域医療構想における推進区域及びモデル推進区域について

岩手県保健福祉部医療政策室の吉田主事が、資料1により説明した。

【発言要旨】

〔(独)国立病院機構釜石病院 土肥院長〕

モデル推進区域に指定されると、建て替えや病床削減等で国から補助が出るなどの支援はあるのか。

〔県保健福祉部医療政策室 石川主任主査〕

モデル推進区域では国から財政的支援等があるが、推進区域では特に補助等はない。

〔(独)国立病院機構釜石病院 土肥院長〕

そうすると、国から推進しろという号令がかかっただけという状況か。

〔県保健福祉部医療政策室 石川主任主査〕

そのとおり。地域医療構想の取組自体は、全国的に進めるというところは共通だが、特に推進区域になった場合、区域対応方針を策定して、国に提出する必要があるため、そういった意味で委員の発言のとおり、国から進めるように号令がかかっていると認識している。

[釜石歯科医師会 八重樫会長]

以前の会議で、岩手県ではなく宮城県であったか、県境を挟んでの医療体制ということで話を一時されたが、県境を超えてとなると、釜石圏域の場合、気仙沼市立病院などが連携可能かと思うけれども、進捗状況などをお知らせしてもらいたい。

[県保健福祉部医療政策室 石川主任主査]

県境を跨いだ医療連携体制の構築については、保健医療計画に県北及び県南地域で連携体制を構築することが記載されている。県レベルで、青森県及び宮城県と県境連携について検討するような場を設けたいと考えているが、具体的にはこれからという状況である。

(2) 岩手県立病院等の経営計画（2025－2030）（素案）について

岩手県医療局の熊谷経営管理課総括課長が、資料2－1及び資料2－2により説明した。

【発言要旨】

[(独)国立病院機構釜石病院 土肥院長]

県立病院でシステム系を更新したという話を聞いたが、この経営計画にどのように寄与しているのか。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

県立病院においてシステム系を更新したという事実はなく、厚生労働省で仕様の統一を検討しているというところであり、実質的に動きがあるという状況ではない。

[(独)国立病院機構釜石病院 土肥院長]

資料に、釜石圏域は県立病院以外にも回復期、慢性期の病床が一定程度存在するとの記載があり、当院もその一定程度に入るのだが、県立釜石病院を建て替える際に病床機能をどのようにするのかということ、例えば回復期は別の病院にもある中で、圏域内の他病院と話し合う予定はあるのかお聞きしたい。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

現在は急性期であり、引き続き二次救急医療の視点で機能を持つ必要があると考えているので、全ての病床を回復期にするという考えは持っていない。基本的には急性期を維持しながら、あるいは連携といったことを一定程度考えていて、釜石構想区域は回復期、急性期過剰とされている区域であるが、必要な医療機能について釜石市から状況を聞き取りしながら、病院の規模等について検討していきたいと考えている。

〔(独)国立病院機構釜石病院 土肥院長〕

実際、急性期病院で最初の入院診療を受け、地域包括病棟や介護施設に入ってから一人では暮らせない方や、施設で対応できない方を当院では引き受けて、地域の医療や介護の負担を減らすことができている。当院では、北は宮古市、南は大船渡市、内陸は住田町や遠野市から患者さんを引き受けている。そうすると、高度急性期病院に患者さんが集まるように、環境が整った病院には沿岸部全域から重症慢性期の患者さんが集まることになるので、そういった方向も考えていただきたいと思う。実際、急性期も週1回程度診療するが、一人では暮らせず介護施設でも大変という方を当院で引き受けたりしていて、患者は、北は宮古市、南は気仙沼市くらいから来るようになっていて、そういう重症の慢性期で特殊な合併症などがある患者は、急性期がどこかに集約されるように、沿岸部でも環境が整った所に集まってくるのではないかと思うので、そういった考え方をに入れていただきたいと思う。

〔県医療局 熊谷経営管理課総括課長〕

病院は、県立病院だけで独立して存在できるとは思っていないで、連携は必須だと考えている。特に、厚生労働省が次の地域医療構想として検討している中には、介護や福祉施設との連携といったところも謳われていて、そういった所との連携も含めて、これからの県立病院は存続していくと考えている。

〔県立釜石病院ボランティア鈴の会 岩鼻副会長〕

県立釜石病院が新築の予定になっているが、住民の立場としては、その新築がどのように進められるのかということがすごく気になっている。釜石市内は広い土地がないため、現地での建て替えということになるのだろうが、実際どこにどのように建つのか。例えば、敷地内でいま駐車場になっている所に建つのか。そうすると、病院を運営しながら、どうやって建て替えるのかということが大変気になるので、そのあたりの具体的なイメージがあれば教えてもらいたい。

〔県医療局 熊谷経営管理課総括課長〕

資料には、建て替えは現在地の周辺を想定と記載している。釜石市からはもう何年も前から要望をいただいていたので、場所等についても相談してきたところだが、今のところ、現地がふさわしいのではないかと考えている。駐車場敷地等も活用しながら上手に進めていきたいというところで、まだ確定しているという状況ではないが、現状ではそのように考えている。

〔県立釜石病院ボランティア鈴の会 岩鼻副会長〕

災害が非常に増えている。県立釜石病院の脇にも甲子川が流れていて、水害の影響がある地域だと思う。現在の建物が建っている所から下側に駐車場があるので、防災対策を考えて進めないと、痛い目に合ってしまうのではないか。そのあたりも踏まえて、よろしく願います。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

わかりました。

[釜石リハビリテーション療法士会 東会長]

知事のマニフェストで、沿岸地域リハビリテーションセンターというものが出ていた覚えがあるが、県立釜石病院の中に回復期病床を作るのか、それとも別個にリハビリテーションセンターを建てるのか、わかれば教えてもらいたい。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

いわてリハビリテーションセンターのサテライトについて、担当部局が医療局ではなく他部の所管となっていて、他部において検討を進めていると承知している。その検討結果を踏まえてということになるが、現在のいわてリハビリテーションセンターは、公営企業ではなく知事部局が所管する施設であり、それを公営企業で所管するとなると、プロセスが必要になるため、担当部においてどのようなリハビリテーションのあり方が適正なのかといった大きな議論を踏まえて、例えば場所といったものも定まってくるのではないかと考えている。現在のところ、県立釜石病院の建て替えの中でといった話があるわけではない。当該部の検討の結果、仮に県立病院で運営する必要があるとなった場合、本計画に間に合えば組み込んでいけるかと思うが、現時点で決まっているものはないという状況である。

[釜石歯科医師会 八重樫会長]

いまの説明で、県立釜石病院は現在の場所で建て替えるということで、拙速にものを進めるということではないが、例えば、いろいろ最適な病床規模などを考えているうちに、その間も人口は減っていく。そうすると、やはり規模は小さくしようとなるのが心配なのだけれども、例えば、県立釜石病院と遠野病院の建て替えは、どちらが先なのか。建て替えに際して、早く作るとなれば市民の希望も湧くし、住民の定着、移住してくる方も出てくるということで、時期をどのようにして決めるのかお知らせいただきたい。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

県立釜石病院と遠野病院の建て替えの順番について、繰り返しになるが、県立釜石病院は最も古い病院になっており、最優先と考えている。順番としては、県立釜石病院を

先に建て替えて、次に遠野病院ということになる。時期については、先の質問の回答でも触れたとおり、周辺の医療資源、議論等を踏まえて決めていくことになる。早ければ、例えば来年度にそういった議論をして、令和8年あるいは令和9年に設計に入りたい。令和12年までの計画期間であるが、最後まで引っ張ることはせずに、なるべく速やかに着手するという方向で考えていきたい。

[県立釜石病院ボランティア鈴の会 岩鼻副会長]

リニアックを県立釜石病院から大船渡病院に移すということが計画にあるが、過去に、この地域にリニアックが必要だということで始めて、いま患者がその恩恵を受けているところである。治療を受ける立場の方は大変な状況になる。かなりの回数を通わなければならないことを考えると、簡単に大船渡病院に持っていくのではなくて、いろいろな問題を抱えて大変だということは理解できるが、何とか維持してほしいという思いがある。

[県医療局 熊谷経営管理課総括課長]

苦渋の選択ということで御理解いただきたい。説明したとおり、医療の高度専門化、携わる人間を考えると、一定程度の集約化は避けられない。意見として承るが、基本的には集約の方向性を維持していきたい。患者の負担については、例えば、入院の部分で患者の負担を軽減するようなことも考えていきたい。そのような対応を取りながら、患者の負担軽減と適切な医療の提供の両立を図っていきたいと考えている。

[県立釜石病院 坂下院長]

いま医療局から説明があったとおり、また、この計画に私も参画しているということで、付け加えることはない。ただ、病院の場所について一言発言する。県立釜石病院の建て替えがようやく明示されて非常に喜ばしい。今後数十年に渡って、県立釜石病院が役割を果たしていくことを考えると、非常に胸が高まる思いだが、ただ喜んでばかりはいられないとも思っている。いろいろ厳しい指摘もあり、これからの病院機能など十分に考えていくことが必要だが、現在、当院が担っている役割は大きく変わることはない。釜石圏域の基幹病院、要の機関としての立場は維持されていくものと捉えていて、災害拠点病院でもあり、新型コロナウイルス感染症といった感染症への対応も考えていかなければならない。先ほど災害について指摘があったように、確かに甲子川の浸水想定区域であり、院長公舎を含め公舎の大部分が土砂崩れの危険地域にあるため、例えば、大槌病院のようにピロティ方式にするとか、いろいろな方法を考えていかなければならないと思う。災害対策については、これから十分に考えていくので、よろしく願います。

(3) 紹介受診重点医療機関について

岩手県釜石保健所の鈴木主任主査が、資料3により説明し、委員から了承を得た。

(4) その他

【発言要旨】

[県立釜石病院ボランティア鈴の会 岩鼻副会長]

この会議に住民の立場で出席しているが、もう少し住民の出席を増やせないのかと思う。

[議長 ((一社)釜石医師会 小泉会長)]

この会議以外でも住民に対して説明する機会を、何か作ってもらえればと思う。いまこういう形で進んでいるということを行政として住民に説明する機会を設ける。そのような機会はいま増えていて、なかなか皆さん忙しいので、手が回らないということもあると思うが、説明してお互いに理解しないといけない。中身をちゃんと知らないということが問題であり、賛成、反対の前の段階の話ではないかという気がしている。民意をしっかりと把握しながら物事を進めていければいいと思う。いま行政が考えていることを説明して進めてもらいたい。もちろん説明するほうは大変だが、ちゃんと説明してもらえると、やはりわかる人たちがいっぱいいて、そこでわかったとなると物事が進めやすい。反対、反対という社会情勢にはなっていない。ただ反対という人たちは、もう受け入れられない社会になってきていると思う。反対のための反対ではなくて、訂正していく流れの中で説明を受けるということ。時間はちょっとかかるようになるけれども。説明するのもなかなか大変なことで、私たちも患者さんの質問に対して説明している。もうちょっと理解できれば、建設的な意見も出てくるかもしれない。了解を得ながら進めていくというのはすごく重要なポイントで、そういう努力も必要ということだと思っている。